

十夕
八刊
東城日報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
號發行人 間田 弘成
印 刷 人 岩瀬 石城郡平町紺屋町十四
號
版 所 紺屋町十四
編 著 所 紺屋町十四
福島縣石城郡平町紺屋町十五
發 行 所 筑波時報社
一 部 金貳錢 一ヶ月金參拾錢
總告料 一 行十四字 贈金五十錢
▲ 日刊 (一週、祭日) 沈刊

された酌婦
観して毒をのむ

▲土井園観察　自説、又
探中である。情を知り苦界に陥ちた事を知り、覺悟の上に自殺を企たもので、半署では右の營利誘拐犯人を嚴

平 明 理 髮 業 者 の
試 驗 制 度 (する) に 對
注 文

▲大浦陪審員決定
議員數は各町村二名宛合計三
名である。

12 酔婦茨城縣生鈴木タマ子（三の平町の某人事周旋業者）手
一假名は十七日午後七時頃丸で醉婦に賣り飛ばされて男の無
屋方に於て自殺をする目的から

催
で

丹園を見る
長途騎乗
檜田氏の通信

櫛田氏の通信

櫛田氏の通信

平町理髪業者では十七日郡山市に開かれた縣下理髪業者大會に石崎、宮川、木村の三代表者出席した事既報の如く當日平町から提出した學項は三項に亘り何れも試験制度に対する希望條件であつたが、平町理髪業者としては試験制度を認めるが、たゞ時機の問題で矢張り縣當局の意見と同様に時機尚早を唱えてゐる。若しその制度を實施する場合には左記事項を取り入れて貰ひ度いと主張した。

▲陪審員抽籤立會人

時機の問題で矢張り縣當局の意見と同様に時機尚早を唱えてゐる町の陪審員抽籤は十九日午後九時から行はれる筈で立會人は吉出五平、星野清吉、柏原眞吾三氏に決定した。

一、満十八歳より向ふ四ヶ年間修業した者へ對し受験の資格を與ふる事

二、満二ヶ年以上同一住所に於て營業をなした者へ對しては各試験により開業を許可する事

三、試験制度は昭和五年度より行ふ事

▲陪審員抽籤　四倉町
審員の抽籤は来る二十日午前
時から同町役場で執行する。
榮太郎

原因について不審の点があるのを鼓吹するため来る二十三日を前に、平町青年團では平町民に体育大會を催はす事が出来、城中學校グランドに於て町民の競技種目は明治神宮競技と同じく外回人でも問はず老若何れも歓迎する由で本年は第一回

新體競除るのとを體競試みでもあり大いに賞品を奮發し且つ各分團の對抗優勝試合を行ふ筈である。

（第十八信）
櫛田彦之進
◎片上村中にて
十五日（曇）午前八時神保村
正條出發那波村から赤穂街道に
入り有名の高取峠を越え尾崎村を
越村、尾崎村を過ぎ赤穂町に至り
入る舊城跡に至り大石神社に参
し祈願し山鹿先生の銅像を祀
す、鹽屋村にて晝食す。午後一時
出發鹽屋村津船渡より里道に依
り二里余の嶮を越え山縣福河村
伊里村に出でて伊里里中にて國
道に合す。午後片上村まで宿泊す。
馬匹少し疲勞す。（十五日午後十時）

自分の顔を滅多斬り
變つた自殺の仕方

十八日午前八時頃平町南町在
自動車部乗合自動車を無免許
鈴木誠一(二二二)が運転し平町
ら赤葉村に向ふ途中平町胡麻屋

澤の間
輕傷者 同校生徒 同村松連
つ子(十七) 下小川村大字
小川字臺市川 や子(十五) 同村同字寺内
草野とし

郷土の誇り……平
帝展の夜蔭偶感 町
（中） 東京にて 永山勇

吉
ある。石城はそんな所です。
と問はるゝ度に、終始貫徹のサシミをかつき出す身の
らサ。何といふ情けない話だ

養蠶同業
代議員改選

傷者は直ちに胡澤澤有馬醫院入院加療中である。

▲物理化學講習

石城は好い所だそぞぞ木
ど、御世辭を云ふ人もある
が、一体どこが好いのだろ
自分等にさつては、郷士の傳

和にはいかに危険を愛すればさて、石炭や、鰐のサシミや、小川のホシ柿ぐらひを提げて郷里を誇らんとするほど

平野古銀治町鐵道踏切番人平野さん(五四)は十七日午後七時頃自宅裏下銳利な剃刀を持ち自分
の右眼の上眉の下を横に長さ八センチメートル、左眼の内眞部を縦長さ五センチメートル何
を切りとした上・咽喉の中央部を深々骨膜に達するまで滅る
れ苦悶してゐる處を七時半頃
は石城郡養蠶同業組合代議員改選
は来る十二月十日午前十時から
平檢車所から歸つて來た息子今
野某が發見直ちに酒井醫師を呼
び應急手當を受けたが全治三週間
を要する重傷である。自殺を計つた原因は發作的に精神に異
状を呈したのである。

平陽女學校生徒が來たので之を避けんとして誤つて電柱に衝したため自働車は傍らの溝に轉落、通行中の左記四名の學生は夫々重輕傷を負ふた、に該自働車には乗客がなく操者鈴木誠一は無事であつた、傷者は直ちに胡澤澤有馬醫院入院加療中である。

四倉青訓所生 戰鬪教練

石城は由來天才に乏しい。藝術、思想、政治、經濟、い如何なる方面にも、吾等は之にて偉大を誇るべき何者もいたくなかった。他國の人と御自慢をする時は、私共はいつもツマラぬ顔をして沈黙してゐる。他はないのだ。それで石城は好い所だそうですネなど、御世辭を云ふ人もあるが、一体どこが好いのだろう。自分等に云つては、郷土の情は一木一石にも捨て難い情である。けれども他國の人人が

これあるのか「一体君等は、そこが好いと思ふのですか」とアベコベに聞いて見ると、曰く「石城で一度絶のサシミを食べたことがあります。實にうまい、他所ではあんなサシミは食へません」と。口

私は、いかに郷里を愛すればとて、石炭や、鰹のサシミや、小川のホシ柿ぐらひを提げて郷里を誇らんとするほど、の勇氣はない。しかし私共には、石炭かサシミでも持ち出るまい。恐らくは明治維新後六十年の久しき間、わが城人の嘗め來つた辛い経験だろうと思ふ。私が今、秋の野に開かれて居る、日本最初の藝術展に於て、觀衆の眼を愕かし、賞讃の聲につゝまるてゐる彫刻「夜陰」の前に立て、彼れやこれやを想ふてみると、一種云ふべからざる感に打たれて、自ら眼の熱くなるを覺える。もし誰もゐなくなつたら「夜陰」を抱いて泣いてゐる。

洋式宴會 仕出し

電話一六七零
#

	力	キ	貝	御	料	理
	相	始	め	申	候	
	カ	キ	フ	ライ	一 人 前	
	カ	キ	な	べ	同	
	カ	キ	よ	せ	な	べ
ス	ガ	キ	同	同	同	同
	廿	五	十	五	十	錢
	五	十	五	十	五	錢
	錢					

力 千 貝 御 料 理

電話七〇二番

強烈なる滋養・美味を以て例年御期待の
大塚支店製靴

電話七〇二番
大塚支店 製靴
強烈なる滋養と美味を以て例年御期待の

自製優良革底靴
最上ボックス革半編上靴
來赤革半編上靴
同キット黒・茶半編上靴
全部自家製品ニテ一足毎三弊店マーク貼付
三二〇九九七円
五〇〇〇五五
〇〇〇〇〇〇〇〇
三三三三三三
三三三三三三

洋生特製品
ヒュクリム
アツブルバイ
ドーナツ
スイートボテト
外永野の特製パン
其種各

狩りの御歸りには是非
程御待ち申します

鳥牛
肉類の好季節!!!
なべ好季節!!!
石川のなべは又格別

砂田駒子、根岸東一郎、川上彌生、島耕二助演
大河内傳次郎映画 半九郎捕物帳
原作脚色西池春之介 監督清瀬英次郎

牛内大投げ賣り
並上口ヒ
肉内百々同
レス金五
同金七
金九十
錢錢
深谷牛内店
平町停車場前(平劇場入口)
電話五二四番

やなか洋服店
平町二丁目 電話二〇三番
寒さに是非
毛糸 各種 新荷着
手編用に防寒具用にイヨ／＼
需用が激増してまゐりました
是非御用命を

捕ひました
い ろ く な
冬 の 洋 服 が
値 段 は 一 割
乃 至 一 割 安
立 襪 上 下 十 圓 位 より
脊 广 三 組 十 三 圓 五 千 錢
オ 一 バ ー 六・七 圓 位 より
其他 髪つたいろく な 冬